「FLIP 研究会 14 年間の検討成果のまとめ」正誤表

（2026.11.20 更新）

下記のとおり、誤記を訂正致します。

No.	訂正箇所	誤	正	修正日
1	『事例編』 p.2-5-4 表 2-5-1-6	Kf=2.2×10^{-4}（kPa）以下の小さな値	Kf=2.2×10^{4}（kPa）以下の小さな値	2016.10.20
2	『事例編』 p.2-4-9 式（2-4-13） 式（2-4-14） 図 2-4-9	p_{su}	P_{us}	2016.10.20
3	『理論編』 p4-14	「4-3 線形ばね要素」の「(2)線形ばね要素を使用する際の注意事項」についての記述。	別紙「【理論編】4-3(2)線形ばね要素を使用する際の注意事項_修正版」のとおり、差し替え。	2019.4.22
4	『事例編』 p .3-2-3 1)置換砂のパラメータ	N 値（N=15）	N 値（N=12）	2022.8.16
5	『理論編』 p.4-30 式 (4-7-7) 左辺第 4 項	$\{\bar{f}_s\}$	$-\{\bar{f}_s\}$	2024.9.9
6	『理論編』 p.4-30 式(4-7-10)	$-\frac{1}{\rho}S^{\mathrm{T}}G^{-1}S$	$\frac{1}{\rho}S^{\mathrm{T}}G^{-1}S$	2024/9/9

No.	訂正箇所	誤	正	修正日
7	『理論編』 p.2-4-43 2-4-3 SRI 法	そこで，SRI 法では，せん断変形に関係する偏差成分を 1×1 の積分点（1 次の積分）を，体積変化に関係する平均成分には 4 点の積分点を設定する（2×2）方法を用いる.	そこで，SRI 法では，体積変化に関係する平均成分に 1×1 の積分点（1 次の積分）を、せん断変形に関係する偏差成分に 4 点の積分点を設定する（2×2）方法を用いる.	2025/8/6
8	『事例編』 p.3-1-9 表 3-1-1-5	法線方向剛性 Kn(kPa/m) 接線方向剛性 Ks(kPa/m)	法線方向剛性 Kn(kN/m^2) 接線方向剛性 Ks(kN/m^2)	2026/11/20